



オオカミと七匹の子ヤギ

グリム童話

絵：mercy lokki

リライト：萩原徹郎

ディレクション：新宮文明

レイアウト：渋谷良久

制作：株式会社テン・アール・ワン 



ある日、お母さんやギが
七匹の子供たちに言いました。

**おるすばんを頼むわね。
こわいオオカミが来たら、
決してドアを開けてはだめよ。**

お母さんは
出かけて行きました。



しばらくすると、ドアをたたく音がします。

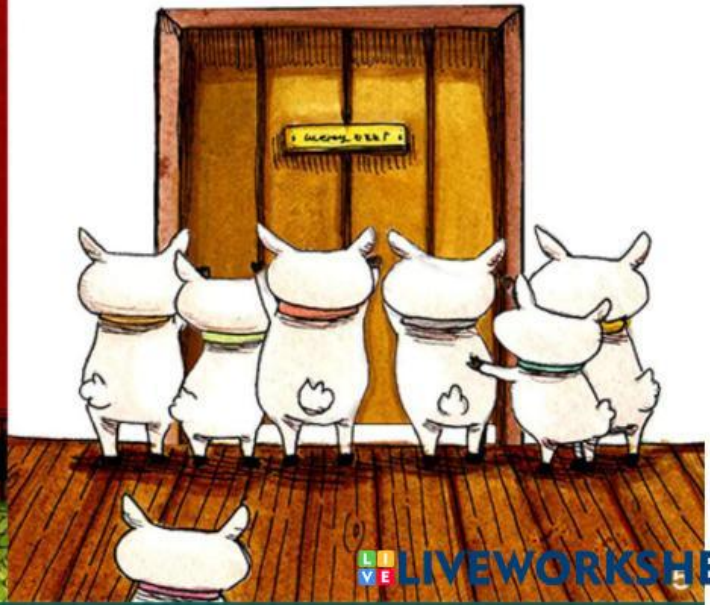
お母さんだよ、ドアをあけておくれ。



子ヤギたちは叫びました。

お母さんは、もっとやさしい声だよ。

ガラガラ声のお前は、オオカミだ!



そこで、オオカミは
千ヨークの粉を飲んで声まねをしました。

みんな、お母さんだよ。

でも、ドアの下から見えるのは黒い足です。

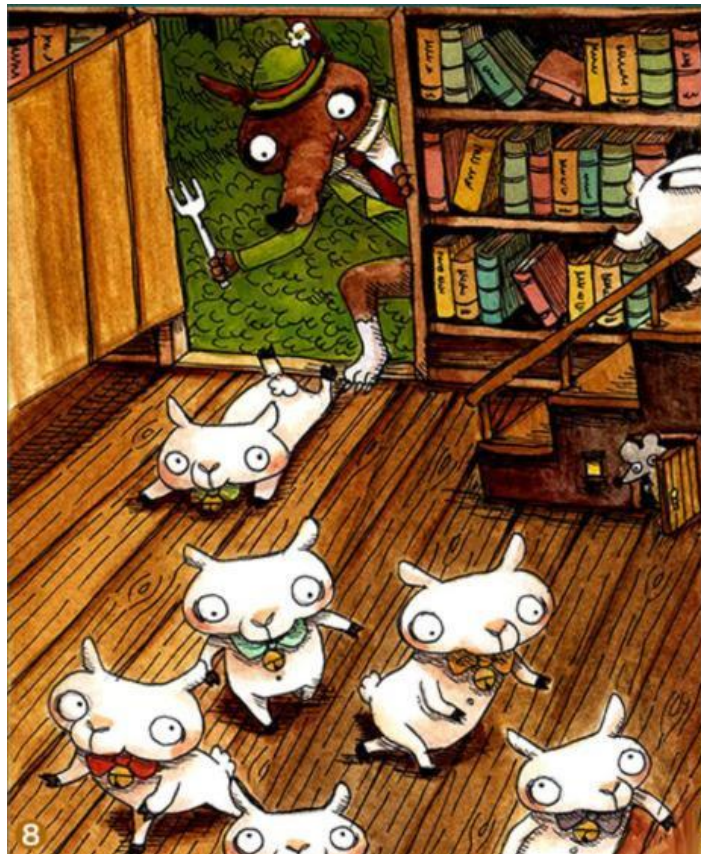
この足はオオカミだ!

オオカミは、手足に白い小麦粉を
つけて、またやって来ました…



お母さんだよ、今帰ったよ。
やさしい声、手足もまっ白です。





わあ～い、お母さんだ！

ドアを開けると、そこに
いたのはオオカミです。
子やぎたちは、逃げたり
かくれたりしましたが、
オオカミに食べられてしまいました。

おなかがいっぱいになったオオカミは
木の^きした^{した}でグ～グ～大い^{おお}ひきで
昼寝をはじめました。





かえ かあ
 そこへ帰ってきたお母さんやぎは
 ひっくり。子やぎたちの姿が見えず、
 名前を呼んでも返事がありません。

とき にかい いちばんちい こ
 その時、二階から一番小さな子やぎの
 声が聞こえてきました。

かあ
 お母さん、ほくはここだよ。

はしらどけい なか
 柱時計の中にかくれて
 いっぴき たす
 一匹だけ助かったのです。



LIVEWORKSHEETS

そして、外で寝ているオオカミを見ると、
ふくれたおなかがピクピク動いています。

子供たちはまだ生きてるわ!

お母さんやギが、ハサミでオオカミの
おなかをジヨキジヨキ切ると、

中からはピョン!ピョン!と次々に
子やギたちが飛び出してきました。



みんな無事かい？

うん、こわかったけど大丈夫だよ。

お母さんは言いました。

みんな、石ころをたくさん探して来ておくれ。



お母さんは、
子ヤギたちが
あつめて来た石ころを
オオカミのお腹に
いっぱい詰めて、

針と糸でぬい合わせて
おきました。



やがて、オオカミが目をさしました。
あ～あ、今日はよく食ったし、よく寝たな。
のどもかわいた、水でも飲むか。



そして池の水を飲もうとしたとたん、
サッブーン!と、お腹の重みで落ちて
沈んでしまいました。

こわいオオカミがないので、
ヤギたちは安心してぐらしました。

END

